

機器利用技術講習会のご案内

【蓄積疲労振動試験システム】

～ あなたの会社（製品）にあった試験条件を求めて振動試験を実施できます！ ～

大阪府立産業技術総合研究所では、所有している試験研究機器等を用いて中小企業の皆様の新技術・新製品の開発や生産管理・品質管理のお手伝いをしています。これら試験研究機器の利用範囲、性能などの特徴をより具体的にご理解いただき、皆様方に一層ご利用いただくため、下記の要領で講習会を開催しますのでご案内申し上げます。

◆日 時：平成22年12月15日（水）13：45～16：30

◆場 所：大阪府立産業技術総合研究所（和泉市あゆみ野2-7-1 TEL:0725-51-2518）
当日は、講習開始時間前に当研究所の玄関ホール講習会開催案内小ボード前にお集まりください。担当者が講習会場にご案内します。

◆定 員：6名（1社2名まで）

※ 受講票は発行しません。定員を超えたときは、お断りする方のみにご連絡します。

※ 受講にはTRIカードが必要です。まだお持ちでない方は当日お申し込みいただけます（無料）。

◆費 用：無料

◆申込み先：大阪府立産業技術総合研究所 業務推進部 技術普及課

※ お申し込みはメール (fukyu@tri.pref.osaka.jp) またはFAX (0725-51-2520) でお願ひします。

メールでお申し込みを頂いた方のみ、返信で受付をお知らせします。

なお、メールでお申し込みを頂いた方には、当研究所の関連情報をお知らせする「産技研ダイレクトメールニュース」を配信させていただきますので、ご了承下さい。

◆対象機器：蓄積疲労振動試験システム（振動試験機および加速度センサーも使用します）

平成20年度に導入された本システム（IMV株式会社製）は、振動試験で製品に蓄積される疲労が、実際の輸送で製品に蓄積される疲労（もしくは、これに安全率を乗じたもの）と同じになる試験条件を求めて試験する装置です。本システムは、現状では完全に防げなかった製品の破損事故や過剰包装を防止するのに役立ちます。また、企業で試験条件を新たに決めるときや見直すときにも利用できます。さらに、製品の共振点の特定や製品にとって厳しい輸送経路の特定などにも活用できます。

現状の振動試験では、試験機のテーブル振動を基準に、規格や企業などで決められた試験条件が用いられています。一方、本システムでは、製品振動を基準に、実際の輸送環境や試験の安全率などから求められた試験条件が用いられます。そのため、会社（製品）にあった試験条件で振動試験を実施できることから、精度の向上が期待できます。

講習では、本システムの概要を説明した後、振動試験機（株式会社振研製）および加速度センサー（B&K製）を用いて本システムの操作方法の実習を行います。

なお、システム/試料等に関するご質問は、下記講習担当者までお問い合わせください。

特長 ・製品振動を基準にして試験
機能 ・複雑な輸送シナリオを作成
・製品の市場許容破損確率を導入
・試験条件を自動的に導出

・蓄積疲労スペクトルを評価基準にして試験
・実際の輸送状態（段積み）に対応
・製品の非線形振動に対応
・製品の異状を自動的に検出

※ <http://www.imv.co.jp/ir/press/pdf/071126fatigue.pdf> や http://tri-osaka.jp/group/infoe/le/life/packtech/research/gijutsu_iten/fatigue.htm を参照

◆講習担当：大阪府立産業技術総合研究所（TEL:0725-51-2518）

情報電子部 信頼性・生活科学系 研究員 津田 和城

